

まちづくり懇談会内容

日 時： 令和 6 年 11 月 11 日(月)13:30～14:45

場 所： 東山会館

出席者： 7 人

1. 開 会
2. 町長挨拶
3. 懇 談

(1) 主要施策の取組状況について 資料①参照

(2) 自由懇談

4. その他

- ・資料②参照 ネイチャーポジティブの実現に向けて
- ・資料③参照 紙の保険証の発行について
- ・資料④参照 緊急告知 FM ラジオについて

5. 閉 会

【自由懇談・そのほかの質疑など】

■南部地域の医療について

- 町 民 先日、継立クリニックが火災にあったが、南部地域のかかりつけ病院として大きな役割を果たしていた。個人的にも定期的に薬をもらいに行っていた。薬をもらうまで大体 10 分くらいで済んでいたが、栗山赤十字病院になると 1 時間以上かかることになると思うので困ってしまう。南部地区に病院があったらいいと考えてくれるのか、栗山赤十字病院で南部地区も賄おうとしているのか考えを聞きたい。
- 町 長 先生は再建したいと意向を持ってきているが、再建するとなると大変なことなので、時間をかけて考えたいということだった。今後は継立クリニックが再建されるかどうか非常に重要だと思っている。再建していただけることを願っているが、仮にされないことになった場合は誘致活動をしたいと考えている。中央 2 丁目に訪問医療が開業されたことや、医師会でも南部地域の状況をみんなでカバーしようという動きをしている。

■選挙の立会人について

- 町 民 先日、衆議院議員選挙があったが、地域から立会人を出すのが困難になっている。オンラインでや立会人をやっている自治体もあるようだが何とかならないのか。そもそも円山に投票所が必要なのか。時間短縮も含めて考えてほしい。探すのも負担になっている。
- 総務課長
(選挙管理
員会事務局
長) ご迷惑をおかけしているが当面は現在の形でお願いしたい。投票所の運営が難しくなっている自治体では、移動期日前投票所などについても議論されている。選挙管理委員会でも投票機会の確保のために期日前投票所など今後考えなければならぬかもしれない。

町 長 昔は投票所が 20 数カ所設けられていて、今では 7 カ所まで減った。投票率を上げるといことは皆さんの権利を守ることでもあるが、時代に即した取り組みも必要なので選挙管理委員会でも検討してもらいたいと思っている。

■公営墓地に共同墓地を

町 民 町営墓地へお墓参りにいったが、お参りする人がいないお墓も多くあったように見えた。檀家や宗派を問わない共同で利用できるお墓が必要でないか。町営墓地の中に一塊にあるのが理想。一緒にお参りすることができる。

町 長 同様の要望はいただいている。核家族化が進み子どもさんが違う町に行ってしまう管理できなくなってしまうようなことがある。町の墓地にはないが継立のお寺で樹木葬というのがあり共同で一つのお墓に入るようなことをやっている。行政サービスとして行われていないことであり、町が始めてしまうとそのお寺がやっていることを圧迫することにもなる。一部議員さんからも宗派、檀家を問わないお墓が必要でないかと話をいただいている。

環境政策課長 合葬墓について、1,000 人の方にアンケート調査を実施した。合葬墓の建設にあたってはトラブルもある。すぐにということはない。樹木葬の関係は確認して連絡したい。

■大雨により法面が崩れた際は

町 民 近年、大雨がより畑が流されることがある。傾斜地がえぐれてきている。何十年か前に法面に石積みしてもらったことがあったが、そのような要望は役場のどこに出せばよいか。

町 長 建設課で現地を見て対応を判断したいので、そのようなことがあった場合には建設課の方に連絡してもらいたい。大雨の被害を受けたところを修繕してはまた繰り返すといったケースも見られるので、地先の皆さんも、法面ギリギリまで作付けしないとか、土砂が入り込むところを作ってもらうなど、崩れないようにする協力をしてもらいたい。

■FM くりやまについて

町 民 緊急放送は FM くりやまが開局されたからできるようになったのか。

総務課長 緊急放送は FM くりやまが開局してから実施できるようになった。FM くりやまは通常 FM 番組を放送している。緊急放送や防災関連の放送については協定を結んでおり、その中で放送するように決まっている。

町 民 FM くりやまは収益をどのように出して運営しているのか。

町 長 経営については、基本的にはスポンサーを募って資金を集めており、町からの放送分についてもお支払いしている。公設民営で運営されており行き詰らせないようにしなければならない。長沼町や由仁町では防災無線を導入し災害情報を流しているが、町ではその手段がなかった。災害情報の発信についていろいろな方法を検討したが、コストも考えてラジオを選択した。整備費用で考えると防災無線であれば 20 億円程度の支出が見込まれていたがラジオを選択したことで 5 千万円程度で住むことができた。取得率高めて防災の機能を高めたいと考えている。

■FM くりやまの放送内容について

- 町 民 先日、東山地区で水道が止まった。そういった情報をラジオで流すとよいと思う。地震によりどこで木が倒れたとか、停電になったとか。今どういう状況でいつ復旧するのかというような情報が欲しい。水道が止まった時も、夕方には復旧すると聞いていたのに結局翌朝にようやく復旧した。こっちから聞かなければ情報が得られないのでそういった情報を発信してもらいたい。
- 町 長 日常的な情報も発信しているが、ご指摘のあったような内容の情報発信についても FM くりやまと検討・協議したい。

■ネイチャーポジティブ宣言について

- 町 民 これまで町民有志が中心となって取り組んできたものがある。それを強力にして取り組んでいこうということだと思うが尻すぼみになってきているような話を聞いた。表明したことによって、熱量を高くして活動しすることはいいことだと思う。
- 環境政策課長 これまでやって来たことを見直して協力していくことや、企業からも協力を得られる可能性が有る。また、財政的な支援を国から受けられる可能性も有る。
- 町 長 ハサンベツ里山の 20 年来の取り組みなどによって、町内外の子どもたちがふるさとの自然にふれながらこのような体験活動ができるようになったが、なかなかできることではない。知っている方も多いと思うが、これまで環境大臣賞や内閣総理大臣賞を受賞したり、NHK のふるさと自然百景で取り上げられたりと全国的に評価されている。関わってくれている方たちが高齢化になっていて少なくなっていることもあるが、ああいう自然環境こそ、子どもたちの貴重な体験施設として残していくべきと思っていて、この宣言も、自然環境の取り組みを行政としても守っていくという意思表示と考えている。